

第1編 マイレージサービスの概要



松永 浩

MATSUNAGA Hiroshi

東京電力ホールディングス㈱
福島本部除染推進室
浜通南地域担当



自己紹介

こんにちは。ソーシャルコスト検討委員会委員の松永と申します。

今般は事務局の推薦を受け、「知って得する」コーナーをお借りして、この1年間、4回の話題を提供させていただこうと思います。

さて私、幼少のころから家族に連れられて旅に行く機会が多かったため、いつの間にか影響を受け、すっかり旅好きになってしまいました。

近年は航空機を使った「空の旅」にどっぷりとはまっております。空を中心とした旅の楽しさ、奥深さについて、みなさまと話題を共有できればと思っております。

私のご紹介する内容が皆さまにとって「知って得する」情報になれば幸いです。

過去には、LCCの話題で「会員談話室」にお邪魔しましたが、今般はもう少し長めに、しばらくのお付き合いを賜れば幸甚に存じます。

どうぞよろしく願いいたします。

はじめに

航空機の旅には欠かせないマイレージサービス。ご活用されていますか。

当協会の会員のみなさまは、出張や旅行で航空機を利用する機会がある方がとても多いと伺いました。

私自身も、航空機を使った移動を楽しんでおり、また、マイレージサービスにも興味があり、十分とはいえないまでもこのシステムを活用しております。

今般は、「知って得するシリーズ」の場をお借りして、私の拙い知識や経験をみなさまと共有させていただき、出張や旅のスパイス、エッセンスとしてご活用いただければ幸いに存じます。

なお、素人のことですので、誤りや誤解もあるかも知れませんが、そんなときは生暖かくご指導、ご指摘いただければと思います（汗）。

なにとぞよろしく申し上げます。

マイレージサービスの概要

マイレージサービスは、FFP (Frequent Flyer Program) ということばから分かるように、本来、顧客の囲い込みがその狙いです。

基本的には、自社の航空機に繰り返して搭乗してもらえるよう、搭乗距離に応じてポイント（マイル）を付与し、貯まったポイントに応じて特典航空券や座席のアップグレード、または商品等を提供するサービスです。

調べてみてください。

上級会員資格

さて、マイレージサービスにおける上級会員のメリットとしては、主に表-1のものがあります。

特に価値があると思われるのは、ラウンジの利用、優先搭乗、優先空席待ちです。

エアラインラウンジは、ファーストクラスラウンジとビジネスクラスラウンジの2種類あり、資格等により差別化しています。ともに、クレジットカードのゴールドカードなどで利用できるカードラウンジと異なり、無償のアルコール類の提供があります。国際線のラウンジに至っては、かなり手の込んだ和食やフレンチといった料理を無償提供するところも多く、加えてシャワールームなども備え、出発前の待ち時間を有効に使うことができます。

また、優先搭乗では、いつも争奪戦になる機内のオーバーヘッドコンソール（荷物棚）を早めに確保するこ

表-1 上級会員のメリット

予約時
専用予約デスク 優先キャンセル待ち 前方座席指定 先行予約
搭乗時
専用カウンターでのチェックイン 優先空席待ち 受託手荷物無料許容量の優待 専用保安検査場 ラウンジの利用 優先搭乗
ボーナスマイル
その他
マイル有効期限の廃止

とができますし、優先空席待ちは欠航やディレイの際、いち早く座席を確保し、他の便に変更することが可能となります。

上級会員資格は、日系のエアラインであるJALのJMBでは「ダイヤモンド」「サファイア」「クリスタル」、



JALダイヤモンド・プレミアラウンジのエンタランス



JALグローバルクラブ（ロゴ）



航空会社ラウンジ（一例）



航空会社ラウンジで提供する食事（国際線の一例）

また、ANAのAMBでは「ダイヤモンド」「プラチナ」「ブロンズ」に区分されるのが基本で、それぞれの資格ごとにプライオリティがあり、サービスの範囲も異なります（実際はもっと細かな区分があります）。

航空機に搭乗しない、という方には何のメリットもありませんが、搭乗回数が多いほど、きっとそのサービスがありがたく感じられることでしょう。

マイル修行 (Mileage Run)

マイル修行，ということばを耳にされた方も多いと思います。

これは、先述のような「空マイラー」が、「上級会員資格」を得るために、繰り返し航空機に搭乗することをいいます。

ある程度、有意な上級会員資格を得ようとする、当然ながら搭乗回数や距離は相当数必要になります。このために要する時間のみならず、金銭的な負担も大きく、一説にはおおよそ50万円程度以上の支出がかかる、とされています。

しかも、この資格の有効期限は基本的には1年間です。このために、毎年50万円程度以上の支出と時間を浪費するのは、いかに航空機の旅が好きな方であっても、趣味として楽しむには少々厳しく、無理があるように思います。

しかしながら、先述のとおり、日系エアラインに限っては1度上級会員になれば、その資格を半永久的に維持できる制度があります。

これは、JALでは「JALグローバルクラブ会員



上段：SFCとJGCのクレジットカード
下段：AMCプラチナとJMBサファイアの会員カード

(JGC)」、ANAでは「スーパーフライヤーズカード会員 (SFC)」と称する資格で、JAL、ANAともに上級会員である「サファイア」「プラチナ」以上のメンバーのみ加入できる、特殊なクレジットカードに加入することで会員資格を得ることができ、このクレジットカードを継続する限り、ほぼ半永久的に「サファイア」「プラチナ」と同等のサービスを楽しむことができます。

加えて、クレジットカードですので、家族会員カードを作れば、修行をしていないご家族も、なんと上級会員としてのサービスを受けることができるのです。

したがって、マイル修行を行っている修行僧の多くは、まずはこの「サファイア」「プラチナ」を目指して搭乗を繰り返しています。

もちろん、これにとどまらず、毎年のように「ダイヤモンド」資格を得るために修行を繰り返している高僧、強者も数多くいます。それだけ、マイレージサービスに魅力を感じている旅行者が多いのかも知れません。

航空連合 (Airline Alliance)

ここに述べたマイレージサービスはもとより、航空機の共同運航 (Codeshare Flights)、サービス、維持・修繕などは複数社が共同で行った方が、そのパイが大きくなり、また、コスト的にも有利です。

したがって、航空各社は航空連合と称する共同体を形成し、サービス等の共有化、グローバル化を図ってきました。

現在は、ワールドワイドな航空連合としては、表-2の3つに集約されています。

表-2 ワールドワイドな航空連合

	スターアライアンス	スカイチーム	ワンワールド
設立	1997年5月14日	2000年6月22日	1999年2月1日
加盟航空会社数	28社	19社	14社
主な加盟航空会社	ニュージーランド航空 全日本空輸 (ANA) アジアナ航空 エバー航空 ルフトハンザドイツ航空 シンガポール航空 ユナイテッド航空	デルタ航空 ガルーダ・インドネシア航空 KLMオランダ航空 大韓航空 ベトナム航空	アメリカン航空 プリティッシュ・エアウェイズ キャセイパシフィック航空 フィンエアー 日本航空 (JAL) マレーシア航空 カンタス航空

これらの航空連合ごとに、マイレージサービスの積算の統合や、上級会員の共通化などがされています。例えば、ワンワールドでは、ブリティッシュ・エアウェイズ（BA）に搭乗しても、JALにマイルを積算することができますし、JALの「ダイヤモンド」会員はワンワールドの「エメラルド」という資格でもあるので、



スターアライアンス塗装機（ANA）

BAでも上級会員としてサービスを受けることができます。

航空連合は、いわゆるレガシーキャリアである大手航空会社により組織化されており、一部の例外を除いて、格安航空会社であるLCCはメンバーではありません。

したがって、LCCに搭乗したとしても、マイルが貯まったり、上級会員になったりすることは、まずはないと考えた方がいいでしょう。

さいごに

さて、今回はマイレージサービスの概要について述べてきましたが、次回以降は航空会社ごとのサービスの特徴や、上級会員資格を得るための仕組みやテクニックについて、お話をしていければと思います。

おつきあいをいただき、ありがとうございました。

月刊推進技術

購読のご案内

年間定期購読料金 **12,566円** 1冊1,151円（本体952円 税95円 送料104円）



わが国のライフラインなどのインフラ整備またはその再構築や新たな地下空間の築造に、掘削残土量やCO₂排出量を抑制し、なおかつ耐震性の高い推進工法のニーズが高まっています。月刊推進技術では、円滑かつ適正に推進工事を行っていただくため、必要とされる技術情報をわかりやすく解説しております。また、推進関連のニュースはどこよりも早く、かつ情報満載でお届けしており、管路敷設に限らず、地下インフラの再構築の計画・設計・施工の業務にお役立ていただける内容となっています。

申込方法

お申込は、郵便局備え付けの払込取扱票に口座番号：00130-3-576039 加入者名：株式会社エルエスプランニングとして、通信欄に購読開始月を明記し年間定期購読料金12,566円をお支払いください。

詳しくは、月刊推進技術編集室にてご案内いたしております。

<http://www.lswb.co.jp/micro-tunnelling/>

月刊推進技術



お問い合わせ先

月刊推進技術 編集室
<http://www.lswb.co.jp/micro-tunnelling/>

〒135-0033 東京都江東区深川2-12-4-201 株式会社 LSプランニング内
電話 03-5621-7850 FAX 03-5621-7851 E-mail info@lswb.co.jp